

第45回広報・見える化部会 会議録	
日 時	令和2年9月2日（金）10時00分～正午
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室さくら16
出 席 者	奥井委員、国吉委員、高田委員、高橋委員、村松委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 「効果的な広報の展開」事業の評価・提案について 2 市民推進会議広報誌テーマ案について 3 見える化企画案について 4 その他
議 事	<p>（事務局） ただ今から横浜みどりアップ計画市民推進会議第45回広報見える化部会を開催いたします。</p> <p>本日の会議についてですけれども、みどりアップの要項第5条第2項の規定により、半数以上の出席が会議成立の要件となっておりますが、本日、委員定数6名のうち、6名ご出席をいただいておりますので、会が成立することをご報告いたします。</p> <p>本会議は、要項第8条により、公開となっております。会議室内に傍聴席と記者席を設けております。また、本日の会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は各委員の皆さんに事前にご確認いただきたいと思います。なお、会議録には個々の発言者氏名を記載することとしておりまして、ご了承いただければと思っております。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌等への掲載をさせていただくことも併せてご了承願います。</p> <p>それでは、今後の議事進行につきましては、高田部会長にお願い申し上げます。高田部会長、よろしくお願いいたします。</p> <p>（高田部会長） 皆様、こんにちは。コロナ禍で皆様、いかがお過ごしでしょうか。このような形でお会いできたことをうれしく思っております。横浜のみどりアップ計画では、「みどり豊かな美しい街をみんなで育む」ということを目指しています。この取組推進には、「市民とともに」というところが大きなキーワードとなっていると思います。</p> <p>コロナ禍では人とのつながりが難しい状況となりましたが、一方で、みどり豊かな街が重要であることが認識されてきているのではないのでしょうか。今まで認識されなかったみどりを探した方も多かったのではないのでしょうか。みどりアップ計画は、まち全体にわたる事業展開をしていて、何らかの形で恩恵を受けることができると、私自身、再認識いたしましたところ です。</p> <p>今だからこそ、これまで築いてきた森の、まちのみどりを広報しなければならぬ、そして、その役割が大きいのと思います。多くの市民に身近なみどりが活用されて、さらに、この機会に楽しみながらみどりを守り、増やす担い手が生まれることをまた期待したいと思っております。</p> <p>本日は2019年度の「効果的な広報の展開」事業の評価・提案</p>

のまとめと、今後の広報誌、見える化企画案の検討となりますが、広報から活用、理解されて、さらにアクションにつながるよう、皆様の活発なご意見をいただきたいと思います。本日もどうぞよろしく願いいたします。

(一同) よろしく願いいたします。

(高田部会長) それでは、「効果的な広報の展開」の事業の評価・提案について、始めたいと思います。では、事務局の方から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

(高田部会長) それでは、ご説明いただきました「効果的な広報の展開」につきまして、委員の皆様からご意見、ご質問などございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(村松委員) ロゴはとてもきれいでいいと思います。若い世代には葉っぱがすごく印象に残るようなので、葉っぱをもっといろいろなところに活用するのもいいと思います。

(高田部会長) そうですね。

(高橋委員) みどりアップ計画のリニューアルされたロゴというのは、2019年度から使われ出したのでしょうか。

(事務局) そうですね。3期目の計画が始まる2019年度から使っているロゴになります。

(高田部会長) 若い方たちへのアピールが不足しているので、ソーシャルメディアとか、新しい形での広報が重要ということは、これまでの部会の意見の中で非常に多く出ていたかと思います。

(奥井委員) このコロナ禍でかなり状況が変わってきたという話が、前回の森を育む部会のときにもありました。なかなか、今、食と農関係のイベントなども開催するのが難しい中で、どのようにしてみどりアップ計画を皆さんに普及していくかというところは、私も何かないかと考えているところです。

やはりインターネットの普及といいますか、SNSなどの活用をしていくべきなのかなと、今、考えています。今後、例えば、畑の様子をTwitterだったり、アプリ配信するようなことができると面白いかと思ったりしているところですが、具体的にはまだ考えているところです。

(高田部会長) そうですよ。私も、実際に自分がみどりの活動をしていて、どこまでやれるのかとか、一時は模索する状況が続いていました。

けれど、考えようによっては、出られないからこそみどりが重要だということが皆さんの中に意識されるようになって、近くのみどりをどのように伝えていくか、私たちも知らない所はたくさんあるので知りたいということもありますし、皆さんに伝えていかなければと思っているところです。

近くに必ずと言っていいほど、みどり施策に関わる所があると思います。ですので、それをどのようにつなぐかが今後の課題でもあるし、私たちが「若い世代に」と言っていた、その内

容そのものがこれに相通ずるところがあるのではないかと思いますので、皆さんが知る、知らせるという情報手段、これを考えていくべきかと思っています。

(奥井委員) 私たちも市民委員ということで、あくまで市民目線というのが一つの見方というか、伝え方でもあるので、例えば、TwitterやInstagramなどを活用して情報交換をしていただけらいいと思います。最近、コロナ禍で、癒しの動画などをTwitterやInstagramにあげて大ブレイクになっていたりしますよね。そのような感じで、活用方法によってはすごく効果的ではないかと思っています。

(村松委員) この報告書としてのまとめ方についてですが、広報の場合、様々な話がバラバラに載っているの、内容を仕分けしたほうがいいと思います。

広報誌とか、マスコミ関係とか、車内広告とか、そういったものがどうだったかという媒体の話と、それから、内容ですよね。イベントについての内容とか、様々な活動についての内容、公園ですとか、森に親しむという、そういった内容についてどのようにやっていたかという話と、最後に、その広報の手段としてロゴとか、グッズとか、葉っぱとか、そういった手段がどうであったかという、その三つぐらいかな、今、思いつくのは。仕分けして報告すると分かりやすいと思います。

(高田部会長) そうですね。大まとめになっているよりは、仕分けをしてということですよ。

(国吉委員) 42ページの広報の展開のそのページですが、「メールマガジンやソーシャルメディアなどの情報発信」の所で、このメールマガジンはどこから入っていけるのかとか、Twitterはどこからという、具体的なことも入れておいてもいいのかなという気がしました。本当にやっているかどうかが見えにくいと思います。

(事務局) そこは事務局のほうで補記したりする形もできると思います。

(望月委員) 42ページの「効果的な広報の展開」の所ですが、もちろん、これはみどりアップ推進課を中心にしてこのような広報をやったということによろしいとは思いますが。

それともう一つ、この広報・見える化部会が主導して発行した、『みどりアップ Action』、これも「効果的な広報の展開」の役割としてやはり実績に入れておかないと。この広報誌をリニューアルする際、皆さんが一生懸命、議論して、名前も、新しい名前にして、それで、その広報をこういう形でやりましょうと議論して、展開して、それが広報誌として配布されているわけですから。その事柄というのが、この「効果的な広報の展開」の所には全然出てこないです。

(高田部会長) はい。それはぜひ入れるべきですよ。

(望月委員) それを踏まえた上での皆さんの評価でもありますよね。もちろん、市の皆さんの努力、『広報よこはま』への掲載とか、交通機関への広告展開というのは非常に大事だと思います。けれど、この部会の皆さんによる広報の努力というものも、やはりみどりアップ計画の一環として行っているわけですから、その部分を何とか入れてもらうように考えたほうがいいと思いますが、

いかがですか。

(高田部会長) そうですね。皆さん、そう思っていると思います。

(望月委員) 一般の人が見たときに、『みどりアップ Action』という広報媒体誌、非常に訴求力があるというか、私も駅などで見かけたりすると、出ている、出ていると思っていました。やはりその訴求力というものも、この「効果的な広報の展開」にとっては重要な役割だったと思うので、「実績」の所に1項目加えてもらえないとまずいと思います。

おそらく事務局から意見はあると思います。市の実績との仕分けをどうするのかということも含めても、1項目ぐらいはこの「実績」の所に入れてもらうというのは大事じゃないかなという気がします。

(事務局) そのことについては、目次を見ていただくと、7番目に大項目として、「市民推進会議広報誌」、この『みどりアップ Action』について書かれてはいます。後ろのほうで掲載してはいますが、実際に広報効果もあることですので、扱いについて検討させていただければと思います。

(望月委員) なぜそんなことを言うかということ、これまでの市民推進会議の報告書も、毎回、発行したものが一番後ろにまとめて付けられています。その活動がどうであったかとか、あるいは、それがどういうふうに広報に貢献したかという部分が、あるようではなかったです、今までの報告書に。

だから、やはり広報の活動のところに、この部会の皆さんの活動がこういうものだったということを何らかの形で「実績」の所に入れてもらえないかなというのがお願いします。

(事務局) はい。いつもご活発にご意見をいただいていることもありますので、どのようにできるかは検討させていただければと思います。

(望月委員) はい。お願いします。

(高田部会長) この「効果的な広報の展開」について、皆様のご意見はここまででよろしいでしょうか。

それでは、議題の2番目、「市民推進会議の広報誌テーマ」についてですが、事務局から説明をお願いします。

#### (事務局説明)

(高田部会長) それでは、ご説明いただきました「広報誌案」につきまして、皆様からご意見、ご質問がありましたらお願いします。

個人的には、市民の森をテーマに上げるということは、今の状況になじんでいると思います。それも、市役所の方にご質問させていただくというのも、取組としては皆様に興味を持っていただける内容になると思っています。

知らないことが私もたくさんありますが、さらに、周りの人たちに市民の森を知っているかとか、コロナ禍でどうしていましたかと尋ねたときに、公園には行ったということはあっても、市民の森というのはちょっと聞こえてこないです。そこで、『みどりアップ Action』の取材で新たに知った内容などを少しお話ししたりもしました。それを多くの方にもっと知っていただ

きたいなというのがありますので、非常にこの内容には期待していますが、皆様はいかがでしょうか。

どんな方に知っていただきたいのかとか、どのようにそれを伝えていくか、その辺りから始めたいと思いますが、いかがですか。

(奥井委員) 基本的な質問ですが、これはどこの部署の方にインタビューをさせていただくことになっていきますか。

(事務局) 今、案として考えていることについて、資料の2ページの図を使ってご説明します。

まず、最初に地権者さんに対して指定させていただけないでしょうかという用地交渉を担当する部署の者、それから、その後、契約が済んだ後は整備工事が入りまして開園になりますので、その整備を担当する部署の者、それから、周辺住民の皆様ですとか、地権者さんで結成していただく愛護会への働き掛けやサポートをするような、愛護会に関係する部署の者、3つの部署へのインタビューを考えております。

(奥井委員) 結構複雑ですね。関わる専門の方がそれぞれいらっしゃるということですね。

(事務局) はい、そのとおりです。素朴な疑問から、何でも聞いていただければ。

(奥井委員) 分かりました。勉強になりました。

(国吉委員) 今回、この市民の森ができるまで、できてからのプロセスというのを拝見しまして、ぜひ、この図をもう少し柔らかい感じで誌面の中に組み込めばいいのではと思いました。非常に分かりやすく、これにみどり税の使い方をこの図の中でうまく組み込みながら、具体的な金額というよりは、ここにみどり税を使っているんだということが分かるような形で誌面に載せられると面白いというか、理解しやすいかなというような気がしました。

(高田部会長) 吹き出しのような感じで、「ここにみどり税」となっていたら分かりやすいですよ。

(国吉委員) そうですね。

(高田部会長) いろいろな担当の方が関わるということも載せていただいたらいいかもしれないですね。そうやってだんだんに重なって出来上がっていくというのが分かるのではないかなと思います。

私から質問ですが、愛護会というのは、市民の森が契約されたときには必ず併設されるのですか。

(事務局) 100パーセントではないです。

できる限り結成いただくように働き掛けはしますが、愛護会が結成されていない市民の森もあります。

(高田部会長) それから、先ほどの担当部署についてですが、そのようなことを広報するのは、また別の部署ということになるわけですか。

様々な愛護会がありますとか、このパンフレットを作ってい

	<p>る部署は？</p> <p>(事務局) 市民の森を紹介するパンフレットを作っている部署は、愛護会をサポートする部署と同じです。</p> <p>(高田部会長) パンフレットを作るというのが一番、行こうとしている方とか、活用しようとしている方には身近な部署になると思います。</p> <p>(事務局) そうですね。市民の森そのものの広報もやっておりますので。どういった視点で業務をしているかといったことも聞いていただけるかと思います。</p> <p>(高田部会長) 情報がどのように集約されていくかも分かるのかなと思います。 それから、区役所はこの中には入ってこないですか。</p> <p>(事務局) 区役所はこのプロセスの中に直接関与する部分はないです。</p> <p>(高田部会長) 森ができるまで、さらにもう一步言えば、市民のところに届くまでが分かるかというのかなというのを感じましたが。</p> <p>(事務局) そうですね。どのような流れで広報をしているかといったこともご説明できるようにしたいと思います。</p> <p>(村松委員) 私もこういうことが知りたかったという内容なので、とてもいい企画だと思います。市民の方も、こういうことを知りたいと思っていた方がたくさんいるとは思いますが、その先、この森に行ってみたいとか、それから、森づくりに参加してみたいとか、または、愛護会に入りたいとかいう人も思うので、そういう市民がこれを見て、次にどういう行動をとれるかというようなことも、載っていると良いと思います。 市内にたくさんある市民の森がどこにあるか、地図を載せるスペースはなさそうなので、QRコードなどで全ての市民の森の住所や地図が分かるようになっていていいと思っています。</p> <p>(事務局) 誌面を工夫したいと思います。</p> <p>(高田部会長) 「市民の森ができるまで」、「できてからのプロセス」なので、ゴールが良好な森からさらに、市民が参加するところまでいくといいと思います。 村松さんがおっしゃったアクションへのことも付け加えると、一目見て、今、自分はどの位置にいて、どこから参加できそうかとかいうこともイメージができると思います。 それから、この図でかなり目的がはっきりするところですよ。アクションの内容というの、これに沿った中身になれば。</p> <p>(国吉委員) この図をベースにということと、その後のアクションのことを考えてみて、例えば、私たちは、森で何をするかということ、散歩するだけとか、あとは、子どもたちを連れて植物を見たり、虫を探したりということぐらいが考えつく程度です。世界を見てみると、森をいろいろと活用しているドイツの人だとかスウェーデンの人とか、森にすごく親しみを持ちながら生活している人たちというのがいるので、こういう活用の仕方もあるなどというようなことが提案として少し盛り込めると、また視点が違</p>
--	---

っていいと思います。

(高田部会長) 森で何をしている、何ができるか、楽しめるかですよね。そういう意味での大きな活用というくくりで日本ばかりでなく、世界の方たちが親しんでいることも、テーマとして少し載せるということですね。

(国吉委員) 森の中で幼稚園を開校している所も中にはありますし、日本に暮らしている外国の方たちは、国に帰れない状態の中、森でサイクリングや、いろいろな形で活用していたような話も聞きます。そういうところも取材できると、面白いのかなと思います。

(高田部会長) 今、森がどのくらい利用されているかとか、どのように利用されているかというのは、市でつかまれているのでしょうか。

(事務局) 人数のカウントをしていないので、俯瞰して分かるような情報を持っていませんが、愛護会さんが活動をなさっていて、普段、感じてらっしゃること、こういう方がよく来てくれるよとか、そういったお声をいただくことはあります。データをとっていると、そのようなことはしていません。

(高田部会長) 今回、このテーマがあったので、近くの獅子ヶ谷市民の森、私は鶴見で生まれたのですが、初めて行ってみました。実際、家から20分ぐらいの所ですけれども、行ったことがなかったので、行ってみたんです。

そこで活動しているのが愛護会だけではなくて、有志の方のようすけれども、生き物について詳しい方が毎月、定例会を開いていて、広場へ行くと、表札のような掲示板が掛かっていました。第1土曜日とか、日曜日に会がありますと書いてあって、その集まった方たちがそこで観察会をしたり、いろいろな利用をしたりしているようでした。これからは愛護会、プラス、利用されているグループや個人についても、調べていく必要があるのかなというふうに思います。そのようなことが載ることによって、そこに参加しやすくなるというのも、幅が広がれると思います。ぜひ、そのきっかけがつかれると良いと思います。

(村松委員) 前に、森で活動されている方にヒアリングしました。やはり毎週のように地元など、広くイベントをされていました。間伐材の工作とか、生き物の観察会など、子ども向け、大人の方もですが、森でそのような活動を、愛護会ではなくてNPO法人の方がしているところもありました。

(高田部会長) そのような情報が載せられるところがあるといいですね。きっかけになるような広報誌を作れたらと思います。

(事務局) 市民の森に関してアイデアをたくさんいただいておりますので、これから発行していく広報誌の案としても、こちらで持たせていただきたいと思います。

(高田部会長) はい。よろしくお願いたします。  
それでは、このぐらいで広報誌についてはよろしいでしょうか。

(村松委員) 第3号のほうはどうなっていますか。

(事務局) 取材のほうが延期となっていますけれども、今のところ、9月16日に取材を実施できないか調整を進めています。現状を考えると、取材の人数を絞ったほうがいいかなと思っていて、執筆を予定していただいている国吉さんと奥井さんのお二人に新吉田地域ケアプラザにご一緒いただいて、取材ができればと思います。皆様に共有する中で、文字情報になってしまったり、実際の雰囲気を感じていただくことができなかつたりしますけれども、事務局のほうから皆様にご報告をさせていただきますので、そちらで広報誌編集のほうのプロセスに進みたいと思っています。

(高田部会長) 発行はいつ頃を予定していますか？

(事務局) 2月頃を予定しております。

(高田部会長) 4号は、もうこのイメージで進めますか？

(事務局) 皆様にご了承いただいているようなら、この形で進めたいと思います。

(高田部会長) よろしいですか。

はい。では、それで進めていただければと思います。  
この担当者を決めるのは、ここで決めたほうがよろしいでしょうか。

(事務局) はい。これまでは1号で主に奥井さんと高橋さんに執筆いただいて、2号は村松さんと国吉さんと、裏面のほうを高橋さん、メインという形で執筆していただいています。ぜひ、執筆したいですという方、おそらく複数名書いていただけるボリュームになると思いますので、ご応募いただけると。

(高田部会長) 私でもいいですか。

(事務局) はい。お願いします。

(村松委員) 私もいいですけど。

(高田部会長) お願いします。

(事務局) また後ほど、メールでご意向を伺いたいと思います。

(高田部会長) はい。お願いします。

では、以上でよろしいでしょうか。ありがとうございました。  
それでは、市民推進会議広報誌テーマにつきましては以上といたします。  
続いて、「見える化企画案」について、お願いします。

(事務局説明)

(高田部会長) それでは、ご説明いただきました「見える化企画案」につきまして、委員の皆様からご意見、ご質問等ございましたらお願いします。今回はターゲット、ツール、テーマ、これについて明確にさせていきたいと思っています。



アンケート調査からターゲットについては、若い層にあまり知られていないということははっきりしていることですので、項目に挙げていただいていると思います。ここについてはいかがですか。ファミリー、単身、大学生、または、認知層。これ以外に何かありますでしょうか。

(奥井委員) 大学生向けのボランティアの紹介チラシというのは、森部会でも話題になりましたが、最近、SDGsも注目されて、学校やそれに取り組むゼミなども多い中で、やってみたいという方はかなり多いと思います。このチラシは具体的にどの辺りに配布というか、置いていただくとか、そういった案はありますか。

(事務局) 具体的な計画はまだ立ててはいないです。例えば、就職活動に関連する情報を提供しているような窓口には置かせていただけないかなど考えています。その辺りは大学さんと調整が必要になってくると思いますが、いろいろな窓口に当たってみたいと思っています。

(奥井委員) はい。いいなと思いました。

(高田部会長) 私たちのみどりのルート1の活動のときに、関係者のお子さんが高校生でしたけれども、学校でボランティアをしましょうという課題があって、お手伝いをしたら証明書を出していただけますかとかという質問がありました。それを学校に持って行って、やってきましたという証明をするそうです。認定証みたいな、証明書というか、何かそのようなものが出るというのかなと思いました。

(奥井委員) そのようなニーズも世の中にはあるんですね。

(村松委員) 中学生がカードを持っている例がありました。横浜じゃなくて、前に住んでいた所ですけど。地域で何かすると、地域の自治会長さんとかに押しってもらうというカードを持っていて、内申書に響くそうです。

(高田部会長) そのようなのでも、きっかけでやってくだされればいいですよ。

(奥井委員) 私が今、関わっている取組のインタビューに大学生が来てくれることになっているのですが、その後、収穫真っ盛りの時期なので、ちょっとボランティアしませんかと言ったら、皆さん、結構行きたがって、手伝っていただくことになっています。皆さん、興味を持ってくださっていると思いました。

(高田部会長) 何かしたいというのは本当に思っていますよね、皆さん。

(奥井委員) そうですね。今、なかなか集まらないので、こういう機会は貴重なのかなとすごく思いました。

(高田部会長) TwitterとかInstagramは市のほうで作り上げていただくということだったと思いますが。

(事務局) Instagramの開設は、少しスケジュールが押ししまわっていますが、進めているところです。

(高田部会長) すごろくにしても、冊子にしても、今まで私たちが『Action』で入れてきたように、QRコードを必ず入れて、その詳しい情報はそこを見れば分かるというのがあるといいと思います。  
市民の森のパンフレットが作られていると思いますが、全ての市民の森にありますか。

(事務局) 基本、全ての市民の森について作成しています。

(高田部会長) この前、ホームページから探しにいった、全ての市民の森にあるのかなということがあったので。

(事務局) 少し分かりづらい部分があったということですね。

(高田部会長) それから、最初に取材に行ったときの地図もそうでしたけど、市民の森は民有地を森にしている関係からか、入口もいろいろな所にあって、そこが市民の森に通じているというのが分かりにくかったのと、地図にそれが明記されていないということがあって、見にくいと感じてしまいました。その辺り、もう一度見直しをしていただければというふうに感じました。  
どこも統一したような書き方がしてあれば、分かりやすいとも思いました。

(事務局) 自分が地図のどこにいるのかが分かりづらいところがあるということですね。

(高田部会長) そうですね。路地のようなところを入れていって通じる場所とか、市民の森の出口と道路とのつながりとか、公園でしたら、はっきり門のような所があってずっと柵で囲われている感じでわかりやすいのですが、市民の森だと、ちょっとそれが明確じゃない所が多いと思います。森に入る前の分かれ道の道路ぐらいから入口までずっとつたっていけるような、例えば、バスから降りて、そこに至るまで分かるようなアプローチがないと、ちょっと分かりにくいと思います。境界線なのか、道なのか分からない地図でしたので。

この機会にもう一度見直しをしていただけると。

せっかくお知らせしても、結局行ってみて迷っていると、この先に何か広場があったのに行かれそうもないと言って諦めてしまう場合もあるかもしれないと思いました。

他にいかがでしょうか。

(奥井委員) さきほどの事業報告の中で、メールマガジンの発行とありましたよね。それはどこから登録ができますか。

例えばですが、メールマガジンなどで、市民の森の人気投票を試みたら面白いかなと思いました。

行ってみたい市民の森とか、よく行く市民の森とか、そういったアンケートで人気投票を試みて、答えた方には抽選で「葉っぱー」グッズをプレゼントじゃないですけども、そういったちょっと楽しみがあったりして。その人気投票の結果をまた広報誌などでお知らせするというのも面白い企画かなと思いました。

(事務局) それですごく人気が出たら、地元の愛護会さんは喜ばれるかもしれないですね。

(奥井委員) そうですね。

(高田部会長) モチベーション上がりますよね。

今、奥井さんがおっしゃったのも、市民の森全体をターゲットにしていることですね。

それはとても大事なことだと、私も思います。例えば、写真コンクールも前に案として出たかと思いますが、それについても全部の森を対象にたり、どのような生き物がいるかなどの簡単な調査なども、やり方は工夫するとしても、こんな虫がいた、あんな花があった、木があった、気が付いたとか、テーマを決めて、みんなでそれぞれ報告すると、一つのデータにもつながって、森の役割のようなものも分かってくるような企画になるのではないかと、今、思いました。

(奥井委員) そのデータを集計して公開すると、見てくださった市民の方もさらに興味を持っていただけたと思います。

(高田部会長) 森を活用するということに今、お話がっていますが、森の価値というのがあります。それを目的にこの政策がなされていると思います。その一つが、例えば、生物多様性で、生態系にも重要な役割を果たしているということがあると思います。また、ヒートアイランド現象の緩和に役立っているとか、そのあたりのお話を、今の時代なので、ウェブ講座のような形で、専門家の方にお話しただいての講座を開くとかということの意味があるのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局) 現地でやるようなボランティアの講座などがありますが、ウェブ講座というのはこれまでやったことがありません。現在の状況においては、ウェブ講座というのも一つの手段としては考えられるかと思えます。

生物多様性という意味では、お手入れをどうしていくと森が良くなるかというようなお話を先生にさせていただくようなこともあります。それを一般の皆さん向けに広く公開するというようなイメージですね。

(高田部会長) そうですね。いわゆる市民レベルの講座。先生は専門的ですが、分かりやすい、子どもたちも分かるような講座があったらいいかなと思います。そうすると、この森からこんな恩恵を受けているんだ、だから、大事にしなければいけない、そして、その森を守ろうじゃないかという、アクションにつながっていけばというのが、私の思っているところです。

(事務局) 今の時代、発信の仕方として一つありますね。

(高田部会長) はい。ご検討いただければと思います。  
他にないようでしたら、このぐらいでよろしいでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。今、ターゲットとツールという形では、大学生向けのボランティア紹介というも悪くないというご発言もいただきましたが、このツールを掘り下げて具体化を進めるような形でもよろしいですか。

(高田部会長) いかがでしょうか。

(奥井委員) いいと思います。

	<p>(村松委員) 高校生まで広げるのはいかがでしょうか。</p> <p>(高田部会長) そうですね。私も聞かれたのは高校生でしたから。</p> <p>(国吉委員) 私立高校はおそらく、課外活動の一環で、先ほどおっしゃったようなポイントじゃないですけども、必ずあると思います。大学生もそうでしょうけれども、何か証明ができるような形でというのは非常に有効かと思います。</p> <p>それから、少し先のことになるかもしれないですけど、世間では、TwitterもInstagramなど、動画のほうに注目が流れているので、外に私たちが出られない分、限られた中で、この森とか、この公園とか、この地域の中にはこういう素敵な場所、ちょっと行ってみたいくなるような場所がある、という紹介を動画のような形で見せて、それを市民の人たちが、ここ行ってみたいねって家族で検索して行けるようなものが今後できていくと、先にもずっとつながっていくのかなという気はします。</p> <p>こんな珍しい植物があるとか、生き物がいるというのをちょっと具体的に動く形で見せると、また印象も違ってくるような気がします。</p> <p>今、私たち、動画とかを見て、それを参考に、ちょっとここに行ってみようかというような行動に移している方は非常に多いので、団体に動けないけれども、個人的に行ってみようというアクションにつながっていくと思います。</p> <p>(高田部会長) そうですね。では、このTwitter、Instagramに加えて動画というのもツールとして考えていただければということですね。</p> <p>(国吉委員) はい。</p> <p>(高田部会長) それでは、テーマについてはこれでよろしいでしょうか。では、「見える化企画案」については以上となります。事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。</p> <p>(事務局) 本日は、コロナ禍で実際にお会いできないというところで、少しもどかしさを感じております。ただ、こういう状況だからこそ、皆様からどのように広報したらいいかということのご意見伺える、大変貴重な機会となっておりますので、本日はいただいたご意見を参考にしまして、また検討をさせていただきたいと思っております。</p> <p>本日の議事内容は以上で終了となります。以上をもちまして、横浜みどりアップ市民推進会議第45回の広報見える化部会を終了させていただきます。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>次第、名簿</p> <p>資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2019年度報告書(案) 【抜粋】</p> <p>資料2 2020年度広報誌テーマ案</p> <p>資料3 見える化企画案</p>